

第69回「ハートミーティング」意見交換の内容について

上下水道局「水質第2課 業務連携プロジェクト」

★市長からのコメント

- 鳥羽水環境保全センターの藤棚公開に親子で来てもらい、その子どもが水質第2課が企画したイベントに参加したことをきっかけに、将来の科学技術や研究の担い手になってくれたら嬉しい。専門性を薄めて、キャラクターや楽しくなるようなフレーズを使うなど、参加しようと思う見せ方やインパクトのある企画にすれば、もっと興味を持ってもらえる。
- 京都は、市民の皆様の環境への意識も高い。上下水道局には、現場の第一線で活躍している職員や、専門性の高い技術を持った職員が融合している職場が多く、水質分析精度の向上など高い理想を求め、取り組んでくれているのはありがたい。一人ひとりが更に専門性を磨いて、知識の幅を広げてもらいたい。
- 公務員は、志高く新たな挑戦をする人も、必要最小限のことしかしない人も待遇があまり変わらない。そういう面がある中でも、自主的に学び、仕事に情熱を燃やし、一生懸命取り組む姿勢は素晴らしいと改めて感じる。
- 若手が先輩たちにアドバイスをもらいながら、マニュアルを随時進化させ、技術を磨く努力をする。システムを導入・駆使し、情報を共有・活用させる。これらの取組や仕組み自体を、市全体で共有することで、類似の仕事をしている職場の活性化につながる。
- 市民の皆様が、水を通して命を考えながら生活することは、非常に重要であり、そのきっかけとなるような広報活動やアプローチを考えてほしい。

★参加メンバーからの主な声

- 一般公開のイベントにおいては、もっと専門性を排して、市民目線の分かりやすくインパクトのあるテーマを考えてはどうかという市長のお話が、今後の課題として勉強になりました。
- 市長から「大都市の下流に大都市がある地理状況は世界的に珍しく、京都市には大変な責任がある」との言葉をいただき、私たちが常々持っている責任感は決して大げさではないと実感しました。市長の言葉を自信に、この意識をこれからも持ち続け、業務に携わって行きたいと思います。
- 市長から、普段の業務では気付かないことも提案してくださり、勉強になっただけでなく、積極的に新しいことを進めようという姿勢を強く感じました。今回のハートミーティングを通じて、視野を広げてできることを探し、新しいことに対して積極的に取り組む必要があると感じました。
- メンバーの仕事に対する思いが言葉となって、他のメンバーの皆に伝わったことも、ハートミーティングという機会があったからこそだと思います。日頃の取組によって連携が図られていることも再認識できました。
- 組織のトップである市長がどのようなお考えを持ち、どの方向に進みたいのかというのが少し理解できたような気がします。普段我々は目先の業務にとらわれて、視野が狭くなってしまうところがありますが、もっと先にあるものを見据えながら動けば、いつもの業務に更に意味を持たせることができるのではないかと考えるようになりました。